

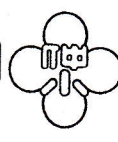
平成25年度

NO. 3

5月31日発行

6月号

# 仲町だより



なかよく  
まなぼう  
ちからいっぱい

練馬区立仲町小学校

努力できることが才能である

副校長 檜垣 盛喜

5月5日のこどもの日に、読売巨人軍に所属していた長島茂雄名誉監督と引退した松井秀喜選手に国民栄誉賞が贈られました。東京ドームで直接ご覧になった方もいらっしゃるかと思います。

私は、テレビで放送していたのを見ていました。その中で松井選手と長嶋監督が、試合終了後、二人だけの特訓を繰り返し行っていたというエピソードが取り上げられていました。この話は、以前にも聞いたことがありましたが、こういった努力の継続が持っている力をさらに伸ばしていった要因の一つになったのは間違いありません。

放送を見ている中で、小学校時代の話も出てきました。松井選手は、何をやってもすぐに修得できる天才型ではなく、むしろ人よりも進歩が遅かったそうです。努力をしなければ人並みにもなれないタイプだったと本人が語っていました。小学校3年生の時に父親から「努力できることが才能である」という言葉を教わったそうです。その後、自分の勉強机の前にその言葉を貼り、寝る前の素振りを欠かさず行っていたという父親の話もありました。父親からの言葉を励みにし、日々精進・努力・研究を重ねてきた姿勢が賞賛されていました。長嶋監督との特訓は、大人だから、プロだからこういった努力を続けられたということがあるかもしれませんが、小学生からの習慣がそのような努力を継続させたといってもいいかもしれません。

「三つ子の魂百まで」という言葉もあります。寝る前に歯を磨いたり、朝おはようと挨拶したりするのと同じように一つのことを継続する（努力すること）が生活の中の習慣の一つとして行われていたのかもしれません。まさに生活の中の一部となっていたようです。

ただ、人間というものは弱いものですから、苦しいことは避け、楽な方へ流れる傾向があります。テレビの話には出てきませんでした。きっと松井選手にも「今日はやめよう。」「1日ぐらいいいや。」など思う日があったのではないかと思います。（松井選手のことですから、まるでなかった可能性もあります。）そのような時に、きっと両親や周りの大人の温かい励まし、声かけがあったはず。そういった繰り返しの中で、松井選手は、小学校時代から努力ができるという才能を身に付けていったのではないかと思います。

努力を続けていても、すぐには成果は現れませんが、ある時期から飛躍的に成果が見られるものです。途中であきらめず、がんばり続けた人だけが得られるご褒美かもしれません。仲町小学校の子どもたちにも、是非この「努力ができる才能」を身に付けてもらいたいと思います。新学期が始まって、2ヶ月が経ちます。4月に今年目標を立てたことだと思いますが、どうでしょうか？改めて振り返り、今日から努力を続けてみませんか？努力ができる才能があれば、様々な困難を乗り越える生きる力の一つとなるはずです。